

2012 年度 立命館学校教育研究会 講演会

2012 年 6 月 24 日（日）立命館学校教育研究会 講演会のご報告



2012 年 6 月 24 日（日）、2012 年度立命館大学学校教育研究会「講演会」が開催されました。原清治先生（佛教大学教授、教育学部長）を講演に招き、「ネットいじめはなぜ「痛い」のか」と題した講演をしていただきました。総勢 76 名の会員や学生が集まり、参加者は、原先生のご講演に熱心に耳を傾けました。

当日は、立命館学校教育研究会の崎野会長の開会挨拶の後、およそ一時間半の間、原先生に、ご講演いただきました。

原先生は、大人世代のように、ネットやデジタルの世界への「イミгранト」の想像を超えた世界が、子どもたちのような「ネット・ネイティブ」の生活を取り巻いているとされます。それは、コミュニケーションのあり方のみならず、人間関係の構築方法までも変化をあたえています。

ご講演においては、様々な調査活動の中で見いだされた具体的な事例を紹介されながら、「一定の人間関係をもつ仲間集団の中にいじめが入り込んでいる」という、いじめの今日的特質を説明されました。さらには、ネットによる被害についても、具体的に説明されました。相手がわからない、周囲の人間への不信感が増幅する、誹謗中傷が徐々にエスカレートするという特徴をもつ「ネットいじめ」は、直接的に攻撃されるよりも、精神的な苦痛を伴うもののようです。このような「ネットいじめ」から、子どもたちを救う方策としては、家庭内でネット使用に関するルールづくりを行う、ネットモラルに関する教育やソーシャルスキル・トレーニングの充実などが必要となり、このような時代であるからこそ、Face to Face の関係を構築し、「つながり」の意識を涵養していくことが大切だとされました。

フロアからは、ネットいじめに関して様々な質問や本学学生の経験の発表などもあり、原先生とフロアの間で、活発で熱心なやりとりがなされました。

「ネットいじめ」に関する最新の調査にもとづくご講演であり、具体的なエピソードや、時には、ユーモアを交えたお話に、会場全体が引き込まれ、一時間半という時間があっという間に過ぎました。

ご講演の後は、米山裕教学部長から、原先生やフロアへの参加者に感謝の念が述べられ、閉会いたしました。

なお、原先生には、講演会後に開催された懇親会にもご参加いただき、懇親会の場においても、多数の会員や本学教職員とともに、活発な意見交換がなされました。